

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 岡山市立京山中学校 (※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫<sup>※注1</sup>

☒ 中学校 ☐ 中高一貫<sup>※注2</sup> ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒700-0087

岡山県岡山市北区津島京町 1-7-1

E-mail kyoyamac16@city-okayama.ed.jp

Website http://www.city-okayama.ed.jp/~kyoyamac/

幼児児童生徒数 男子 468 名 女子 423 名 合計 891 名

幼児・児童・生徒の年齢 13 歳～15 歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800 字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、「自立と創造へ向かう生徒の育成 ―挑戦・共生・豊かな心―」を学校教育目標に掲げ、「学ぶ意欲をもち、自らのもてる力を最大限発揮しようとする生徒」の育成などを目指している。平成 24 年度にはユネスコスクールに加盟をし、校外との連携を図るようしている。「環境」「平和」「キャリア教育」などの教育活動を Education for Sustainable Development（持続可能な開発のための教育、以下 ESD）の視点で捉え直し、校内外の活動に取り組んだ。具体的には①ESD 観点を取り入れた授業実践に係わる活動②W型問題解決モデルに基づいた研究活動③国際理解に係わる教育を行った。

①ESD 観点を取り入れた授業実践に係わる活動

ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度として 7 つの能力・態度を決めた。これらに基づいたものを付加したり関連付けたりすることを通して、ESD の視点に立った学習指導を展開した。具体的には ESD の観点入りの学習指導案を作成、検討し実践を行った。また実践後、各教科で集まり授業の協議を行った。

## ②W型問題解決モデルに基づいた研究活動

総合的な学習の時間（以下、総合の時間）を中心にW型問題解決モデル型の活動を推進し、総合文化発表会（以下、SKF）で発表を行った。また京山フィールド・ワーク（第1学年）、広島研修（第2学年）、修学旅行（第3学年）などを通して、ESDが目指す能力の育成を行った。

## ③国際理解に係わる教育

国際理解教育の充実の一環として、岡山理科大学と倉敷芸術科学大学の留学生を招き、次の内容で交流会を行った。目的を「日本文化について留学生にわかりやすく伝えよう」とし。交流を通して、英語を使う楽しさを実感し、英語学習への意欲・関心を高め、同じ地球人として「共に生きる」ことを学んだ。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

なし
----

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

○「ESD の概念」を「教材解釈の視点」として捉える。即ち、その単元で扱われる内容を ESD の概念の枠組みから捉え直したり整理したりして、教材研究を行う。また授業の目的は、その授業がねらいとする目標の達成であることから、授業評価の欄には授業評価の観点だけを明記し、「ESD として育てたい能力」を教師の支援の中に記号として明記する。

○W型探究活動の形をめざす。W型探究活動とは自ら課題を設定し、その課題の解決のために情報を収集し、整理・分析した結果を、まとめ・表現することで、新たな課題を見つける。そして、再びその課題について探究していくという過程を繰り返しながら、より質の高い課題解決を目指す教育活動を行う。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

岡山市立京山公民館を拠点に、学校と地域が連携し、京山地区の子どもから大人までが共に ESD 活動に取り組んでいる実績がある。このよき伝統を継続するために、本校では地域のボランティア・ガイドの協力を得た教職員研修を行っている。また各教科において年に 1 回以上、ESD 観点を取り入れた指導案を作成し、授業実践を行っている。6 月と 2 月には、学区内の幼小の教職員を招いての公開授業を行い、終了後は、研修会を開き、ESD 観点を取り入れた授業実践への理解を深めた。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

成果としては W 型問題解決モデルに基づいた研究活動は学年が上がるにつれて生徒の理解が深まり、今までの研究活動の積み重ねた結果を発表することでより高い達成感を感じることができたように思える。

課題としては今までの教科横断型の授業や ESD の視点を取り入れた授業づくりを継続的に行いながら SDGs という新たな目標についても取り組む必要がある。

⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

地域の方々との交流や、公民館などでのイベント、ボランティア活動などに生徒会が中心となり活動する場面が見られた。また学校側からだけでなく地域や公民館の方からも取り組みの参加など積極的に声かけをしてくれるようになり、地域との交流が深まった。各自が決めたテーマごとに分かれ調べ学習を行い SKF（総合文化発表会）で発表した。それによって、見てくださった保護者や地域の方々に京山中学校での ESD の活動を広めることができた。また多くの人に調べ学習の発表をすることで達成感を得ていた。

⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

国際理解教育の充実の一環として、岡山理科大学の留学生を招き交流会を行った。目的としては交流を通して、英語を使う楽しさを実感し、英語学習への意欲・関心を高める。同じ地球人として「共に生きる」ことを学ぶ。また。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

他校と放課後の時間を利用して、スカイプでの交流を行った。各校の活動紹介や各県の PR などを行うことによって他校とのコミュニケーションをとった。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

W型問題解決モデルに基づいた研究活動は学年が上がるにつれて生徒の理解が深まり、今までの研究活動の積み重ねた結果を発表することでより高い達成感を感じることができたように思える。また地域の方々との交流や、公民館などでのイベント、ボランティア活動などに生徒会が中心となり活動する場面が見られた。また生徒が声を掛け合い地域の行事に参加することで地域への関心が高まった。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

4 月 職員研修での説明（ESD の理念、ESD パスポート、教科横断型の授業の取り組みについて、ESD の視点を踏まえた学習プログラムについて）  
6 月 （校内公開授業のスタート指導案作成、京山中学校区授業研修会）  
7 月 京山学区研修会（津島小学校、伊島小学校、地域の方との共同活動）  
8 月 職員研修（京山学区フィールドワーク）  
10 月 SKF 文化発表会（研究課題の発表）  
11 月 京山地区 ESD フェスティバル 実行委員会  
12 月 生徒と教職員の ESD に関するアンケート  
1 月 岡山市北区京山地区 ESD フェスティバル（1 月末の土日）  
2 月 報告書 ESD の視点を踏まえた学習プログラムの作成、京山中学校区授業研修会（岡山理大 岡本教授）＊教科横断型のプログラムが中心の授業づくり